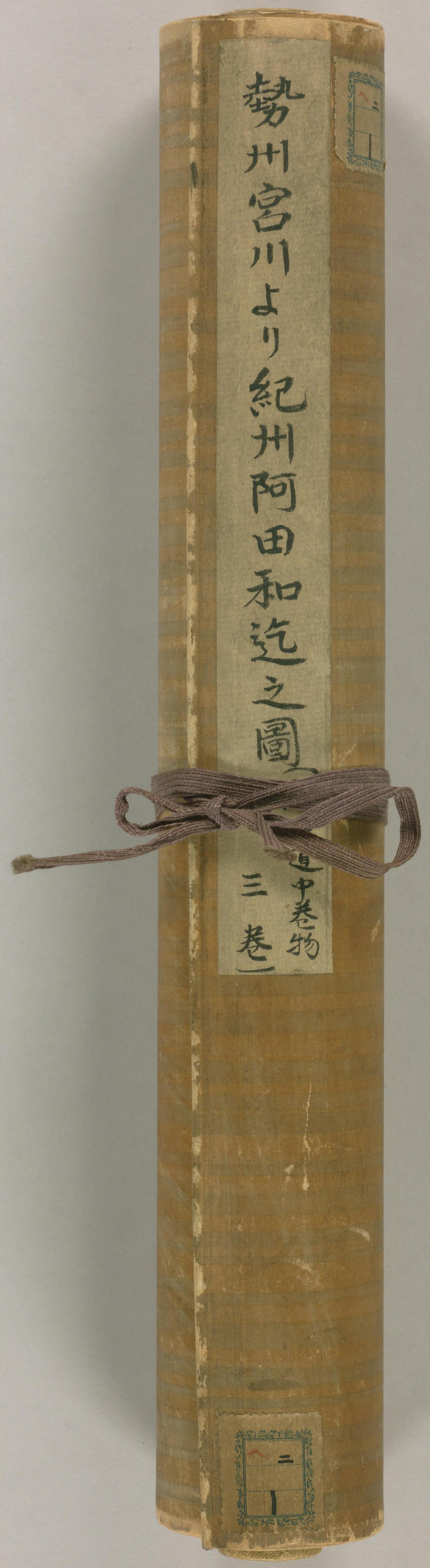


国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

勢州宮川より紀州阿田和迄之圖　紀伊道中巻物　第三巻

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 ヘ二-1

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 ヘニ-1

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

此より。多度郡成川村。即中村
乃枝村なり
祢き坂嶺に出華屋を

相鹿瀬（あふかせ）　至栃原一里半
遷幸要畧に　太神宮大河
瀬を渡り給ふと見廉の流を相（みなかる）
しより名くとも東西二村あり
今も　太神宮の御供田一反
あり御年貢として毎年端午
に蓂蘋葛蒲　笋　歎冬　茗
荷此五種を内宮長官に進献
するとし

千代村　右に龍王祠あり
柳原村　左に無量山千
福寺本尊十一面観音霊
験新し菜不に捨給あり
毎年行者　此時決定の順
礼乃者此観音此御利生
にて無恙然神難不を
凌き西国順礼せしを
板行刊して此ちより出し
橋原（ごちから）　至粟生（あかふ）一里半
にごり川橋あり　渡り
此邊左に大河あり宮川
乃上なり又此邊屬に栃

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号　へ二-1

拓行而して此与より出し
櫑原（ごちがう） 至二粟生（あかふ）一里半
小ごり川橋あり 当渡り
此邊左に大河あり宮川
乃上なり又此辺畠に柿
の木を多く植たり串柿
を造るとて諸国へ出し
神淵村 菓屋を
楠村 同是より紀州
境まで菓を多く植る
粟生（あかふ） 至二三淵一里
東良丹村
三瀬 至野尻一里
邊幸要畧に吉東胡（まなごの）
御淵と有神名帳に多（た）
伎原（きのくら）神社在度会郡
右神宮式に多伎原社
右神宮の摂社とも
神尻の淵原社と同名
にて別に一名御淵（くせの）社
内宮摂社二十四座の
うち吉名胡神に
三淵川舟渡し宮川の
上なり当水舟子一人
棹議式文当水に八式人
三人五人にて渡す
三淵川村 三淵坂堂六町
下り十五町有是より又度
会郡に野尻に神宮領を
野尻 尻一ヶ作法 至阿曽一里
此不家数多くよ郡にて
入口より出口まで一里
の間大かく家法ぐなり

此表のうちに
女まれ子楠柿
たてき柿木の異本を

今都之野原小神主領之
野原　原ニ作法　至阿曽一里
此本郡数多くよりの
入口より出口まで一里
の内大かく家居ひろ
農家引続と雖ども
四十四軒ありと云
神社の出所しるく
のごとし
飛原神社一座速秋津彦命
垣宮一座速秋津比女命
神主文乃面ふせ仲午神
祝式及神名秘書。元元集。
伊勢式小伊勢と志摩
古風堺の山中小五社
文乃面お云ふ五十鈴宮
ふ蓋此六社
一里十町

阿曽　至柏野
一里　此本九の山
除小温泉有志好ま湧
水硫黄の香ひ有同泉
多の湯ふくを以元ま人ふく
湯揚を志ふの湯元とて旅客
舎もふが入湯の諸かきふよ
ア今夜方と云湯にふり湯出
る事八今も都ふま病癒ふり
今も此本小来ま農家小風呂と
大く此湯を汲くよ利ふ小大ふく
湯ー浴湯ふり人とあり
柏野　至侍
半里　柏ふ小柏八柏の書誤
ふ人古文書小柏野とま今と
川をお湯川とふ

夫木集小荒木田延季
白糸乃大一本為ふ滝の糸ゼ
汲たまふく幾世経ぬらん
俗非世記を考ふもーめを神ふ詰め
浴さセんふ為女乃定ふ法宮地と
されと神恵ふかなを勢さるふうりて
お十鈴の川上小清遠ま
汲ふとふくさうも坂速秋津彦
速秋津姫清浄浅瀬の舟代法書小
詳ふふ此ふ未本小並ま
滝の糸ふくの乃ふお神寛
都来法ふき奥津ふり流
命小八ふくぬのふとい
八ふくぬのふとふ名目之智と云
訓のふー亀山院治ふ文永六巳
毎九月二日盗人八千滝糸並ふ殿
内而神宝数多ふ失ふ名滝辺ふ
依同方ふ日糸ふ定世御善上旅
公家ふ云ふ延糸ふ糸の引ふ小
元仕ふ文ふ為ふの糸の詞書小
文永六年毎日一首乃中社祇
奈神宝並宮仕智ふり依盗
人の沙法を妙ふる日の糸ふる
原ー白浪小盗人の名ふ云
朝盗社の江沢の中垣のみちも
岩の上小沖ー二面北神境の
内一面盗人のふめ形ふー年
を胡人為や垣の小形ふ沖ふ加え

此木のうちふ
女ま杉子杉杉
なき杉ふの異本を

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号　ヘ二-1

渚に浴湯客人とあり
栢野 至侍 半里 栢野小栢八栢の書誤
なるべし古文書ハ栢野とす今ハ
川を小栢川と呼
崎 至駒ヶ
侍川ハ水上ハ右へ
まがる石侍を過ぐ此の川
舎りを駒村ハ大内山村の枝村
なり本名駒引の畧なり
岡弓 至長侍 二里 本名大内山の岡
弓井村へ左小半丁祥泉
大津村 此右ハ高山を
越えバ海辺錦浦なり
梅ヶ谷村此右ハ紀伊境
坂峠まで一里拾八町の峯を坂
路けわしく民家海辺なり険
岨にあらず旅人とまる

荷坂嶺 本名大内
山なり侍の一町
社茶小茶屋を
数軒度会郡
侍り西ハ紀州
半巻許りより新
宮まで奥熊野
という千巻一ト無
漏と書
荷坂嶺
勢紀
南海ハ
両国境

後拾遺集 道命法師
名小古知浦の浦と
来く乃まハ
加汰乃ぬ海士
なくなりそり

人の沙汰を妙なり
原一白浪ハ盗人の名とそ
朝熊社の江沢の中垣のみちも
先の玉泉海まで二面北林続の
内二面並人のうあり名所一筆
を切ん所ひ小路を海辺かけ
なるそうなくの芝ひろ多もく
と海うもあらたのすくそ
新み

錦浦俗小錦の字より子ち海
辺うの大和乃入湊くそう
二里下ハ古和浦まうち賽日
先ず大庭俗小浜きたり海浜
なり錦浦ハ紀伊の名玉小入
左り熊野小岡名二本そく
海ざりハー面の浜路の前
ハ此石そくの半なる一一
いち一ハ紀伊のうちより
ハ先摩出のうちより

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

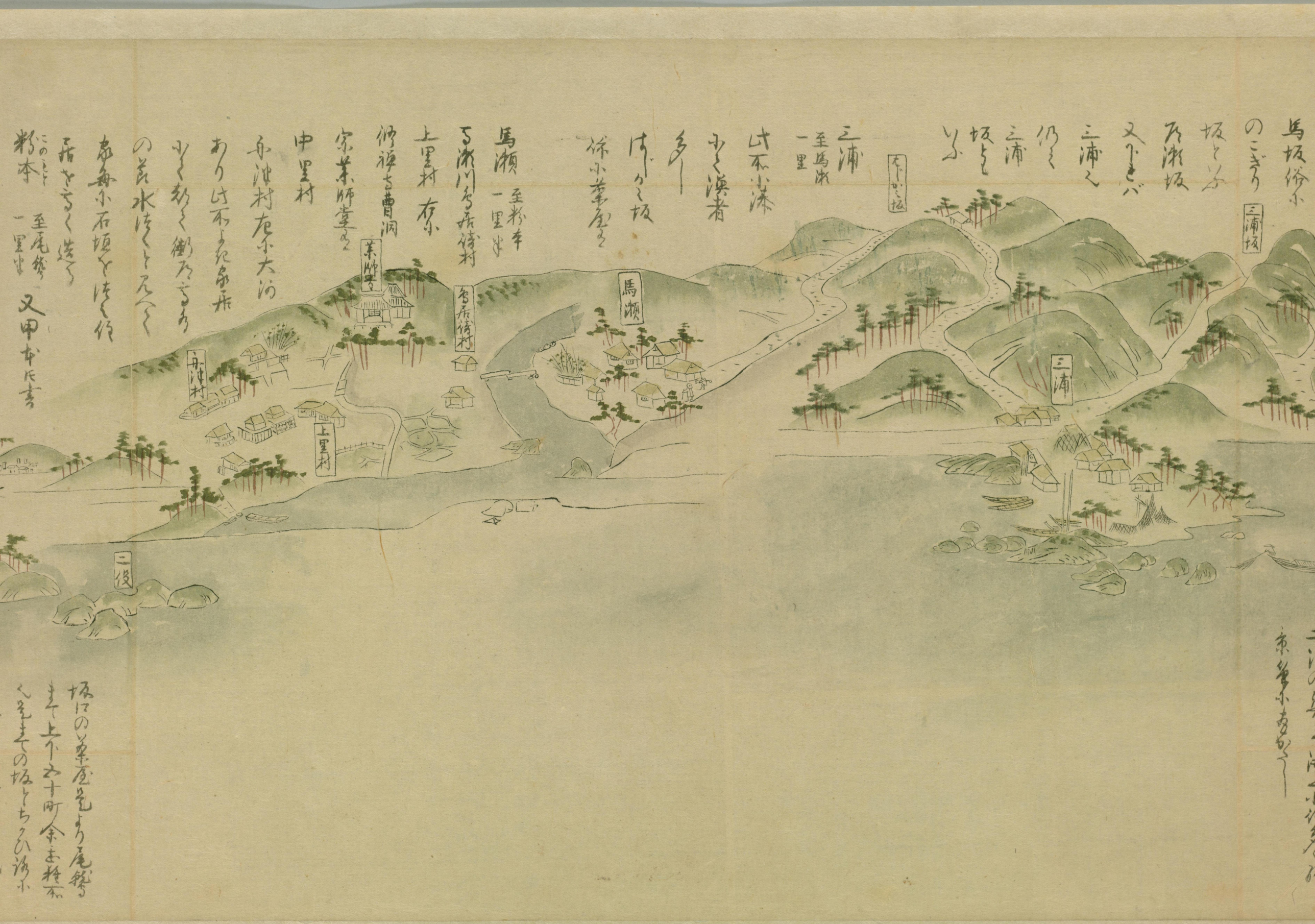
年業於是より新
宮よりを奥熊野
といふ年業一ヶ無
漏とも書
南海道ハ 勢紀 両国堺
岩小脇氣なり
故ニ名く無漏
ハ室の義なりと
予是歳四月
下旬此詠ニ
此なり紀伊
乃方を見れるせ
ハたく家居もな
く山の姿も著く
其本立ツく遠小来
田を見ハ宮原此道路ニ稲を植たり
伊勢の方ハ地高く山梨茂したりのゝ
農民いまだ田を植ず如何小氣候の迷速あ
る事無漏と名付しを宜なるかな
嶺より片上池まで古田町下り坂大勢山
ツく去けハし 片上池大なり池ツく入
海のとし 二郷村家数多くよ紀家
居あり 二口川舟ワたし
川向ひハ長橋湊左ハ入海
大橋見なり此川潮と紀小ハ
無小川上を流るといふ
長橋 至三浦 二里
此不よ紀湊ツく入船
多く家数千軒余を
和方山海役人の番
不ち繁昌の地ん
日和小ハ木のお

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

此不知湊ゆく小船
多く赤敷よ新金を
和布山浦役人の番
不ら繁昌の地へ
日和ハ本のお
まく海上十六里
乃間船あり此町
まく小屋ハいくれ
ハ浦通海井小玉
ら光古屋なり
今ハ右の方へ
行船ハ絶へ
海野ハ海を
東ゑす又
浅池といふを
二股向浦
ゑゑまでを云
小浦ゑを
長浜の神
社有ハ
あり町
とたなれ
此所のこぎり坂
此所ハ
古里村
古里坂と
いふ峯を
坂とゑハ
馬坂俗ハ
のこぎり
三浦坂
坂とゑ
乃浦坂
又ゑとバ

斎小所冥ハ古里峯ゑり晩方の
東之方ハ大浦勝浦新宮ゑ来
此所乃禁小同名を此新浦と
いふ本と浦の勝浦と以ゑ此
悪事ゑり南ハ安宅ゑ云
古き神古有ゑ古録記ハ志別
安居新浦勝浦とあり今ゑ長浦
湊ゑり志別南浦浦ゑ海上
十里ゑ同小船別多ゑ浦古和
二江の奥ゑ海上小船多く能
東筆小者ゑ

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1



国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

ありけれ奈良井
より木曽路の
の美水流れとくく
奈無尓石垣を造り仕
居を高く造り
粉本 至尾鷲一里半 又甲州武田
入口右の山根小橋巻ひ石
碑小巻く小さ祠屋根
を葺うり此所
町家ゆく二百軒
余ありといふ町
乃森云 佐山村
あり手岳頭
二天八王子
とありそうう
三軒
坂口より
小川ニ
渡る佐氏
領八郷
小あり氏
吹乳
及精
人

坂口の茶屋より尾鷲
まで上下六十町余也粉本
くらまでの坂とちくに険ふ
ふ殊大石を並てうえ
奈渡ふ水流れ該橋して
歩行なりしふう
道を造り石を敷く両脇
ふし雪仕の雁木うしむ
武馬紙及八鬼山別名鞍
不知ようよう根ニ
合神大仏坂ふ敷く本
の元ゆくの坂仏石を仕
ありまた之小同
る紙屋茶屋を勧めを
うる 地蔵尊 窟ふ石仏
あり又ふり八町ありて上ふ
天狗岩屋とりて仏有ゝ両の
方尾鷲の湊を見おろせ絶景
なり水地佐奈路多数軒有
る也より東ふ川と川添屋
くく浦を切湊をわりよ
へ大山ふ仏有ゝまく又又
尾鷲うり両ふ九鬼ふ紙を
大船の入大みなとよる
尾鷲 至三鬼三里
此本八海の深所ふ有ゝまく船行
ちり元ふ紙ふ多ゝと云
念仏院町中ふ立浄土宗なる
仏法地恵んの仏又をまふ村
の光林ちよて古紙神剣を氏
亀奥忽神ふく繁昌の地なり
和利宇陀郡へ七ツ一吉野の
木ハが当紙又宇陀の奥より紙
るうをゆまでふ紙ふてうよふ
和利今井八木橋井当の者へ
此尾鷲ふ渡ふ来ゝ者多ゝ又
毎年春ふ酒紙好きこゝふを

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

多々越
を過ぐる
いへ大山陰の
石径ようやく
難儀之樂鳥
通られし辻を
ゆいとられし右
の方本道と
分て一本有
八鬼山と通
川を渡り水出
ハ永渡
よし
坂口ハ
くだり

名木の
椿茶や
有

風伯杜

多奥熊野へ七八里 解脱の地なり
和州宇陀郡へ七十二里 右野の
木ハ名物又宇陀の奥より紙
るを初まる名物とす
和州今井八木橋井名の者人
伊尾鷲へ七拾八里 毎年春夏漁猟始まり二三月
山をより大敷 春ハ春鯖
魚類者よく住ひ春ハ金雀
物多し 但古太和より春良
まで歩行 東大坂へ八里
東熊野へ小国善根冊後より小海
の者の出ル不同
八鬼山 より日坂口へ壱里
絶頂まで二十町 風伯杜有
杉木多し 絶頂より三町茶
八鬼山日輪寺 茶神祠
除山伏修之 十五軒茶屋
日輪寺より坂所伊茶屋
三木里 七軒有
三木浦 本年庄小脇村の者
一日汁盛杜浦の小女四五人
ゑ三艘の舟を仕立て左の方浜
通へ出ル 三木浦なり
山高く木立多く住吉の方ハ切立
三木浦小舟代ハ一分也
浦人の漁業ハ一分也
なりわひ也

名所旧跡
春を待つる浦の
海人すとる火活を
うつさて茶也
古松あき

忠盛ハ忍ぶとて
ありし浦を
わすさそうる
名ハ和海人

伊木も西行の代
まで古歌也

三鬼　至曽根　二里

家数百五十軒計山に添て村く
多し本居ハ是より山路難不ん
加田古江を経て曽根津に入る
二里なり此濱より内海一里の為
小舟に乗ハ海上一里ん三鬼又
三木とも書此出鼻を三木傍と云

又かゝる此傍と云小傍あり
此内海ハ左右山にて深に
情に入たるがめし右の方
曽根に神乗岩古鞍岩と
いふ事ハ形神茶の古鞍に
証柏子に似たり又笛傍の
形に似たるもまた大きさ大を見
ゆより水中に入て見へ候と
いふ右の方古江浦漁人
多く難舟を出し
曽根　至二鬼傍　一里八町

曽根津といふ漁場
にて大船家居あり
舟岩より東に山路ん
大曽根九鬼添へ色
程をし又此辺行野
浦といふ下ハ釈書に
不謂松本なりとて
曽根以郡坂登り十八町
悪險にて難不なり
傳示薬屋俗に法華
薬屋といふ所よりかし
茶辻者に石地荒有

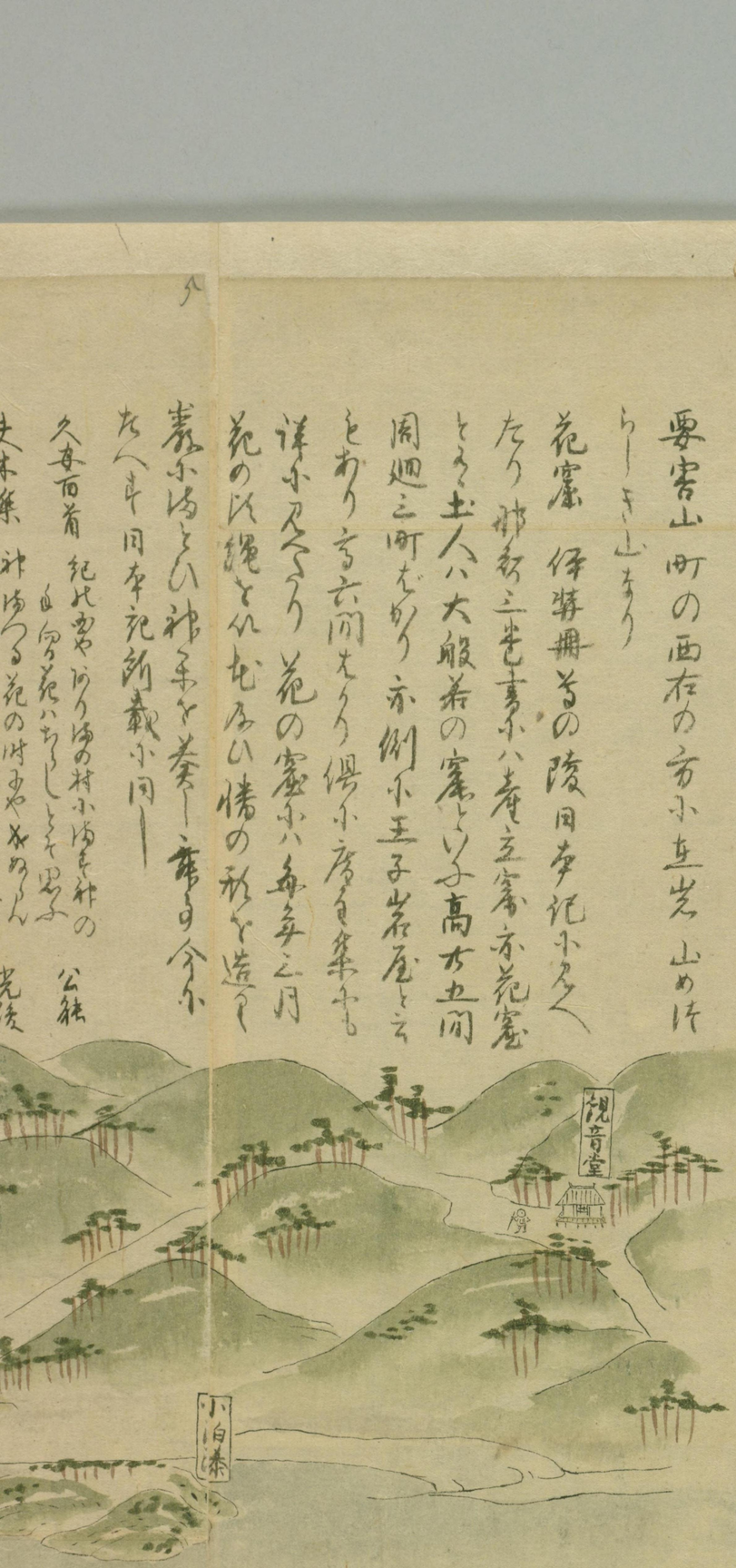
国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

大曽根九鬼湊へ
程をし又此辺行野
浦といふ所ハ釈書に
不謂松本なりとて
曽根江郡坂登り十八町
委儉にて難不なり
傍示菓屋俗に法華
菓屋といふ作よりかし
前辺者に石地荒有
是より 終頂まてハ
四十町ありといふ
曽通り大けし
にて左に入
海南海の
浦に見へ
て景色
よし東南
を望めバ三
本傍かりの
傍菓枝九鬼
尾勢引とこ川
口まて見へ又西
ハ三本浦加田古
江荒井梶加長柄
川口網代湊二鬼傍
合川の口蒲母湊 楯ヶ傍
よく見るに此曽通を俗に左ら坂
といふ下り坂右乃方に見けれ
坂登しかれ是より本尾ハ六
町乃下り坂委難不なり
二鬼傍 至新庫 此所大河中に
一里
あるとて左右山に添入海の傍
にかけ造の家多し港深して
大船を入又 鯨をも立湊の口に
無傍といふ小嶋を海へ出さる
鼻を楯ヶ傍といふ名不なり
庵を集云 楯ヶ傍といふ所を
破のたてかひしたる所とて楯を
付たるやうなる岩尾ともあり
うり波にさらくる汐のたてかふを 塔基法師
楯ヶ傍といふ所をあるなり
藤塔原に楯傍楯津名所にて 松葉集
に ハ 橋麿に入て 右の方を載たり 又
此楯傍の水中に 石美表あり 于汐の
時海中に見るとて 是ハ當國 那賀郡池田荘

蘇塔東ハ橋傍橋津名下ニ云ヒ松葉集
ニハ橋麿ニ入ク 右の分を載ケリ 又
此橋傍の水中ニ石美表あり 于汐の
時海中ニ見ゆると云 是ハ當國那賀郡池田莊
四日市村ニ海神といふ 神名性不謂 海神社
なるゝ同不中村 根来より杉川ニ いふ所の左へ 小亦石美表逆相所ニ
其不人云一の鳥居ハ熊野橋ノ傍の海中ニ ありとゝ
中郷末最亦土人云二本傍ハ東数三百五十軒
川を隔つ間川といふ橋をつくる此橋むかし
より中程ニて清ぐ 相傳 此不伴勢熊野の
堺ニて其神宮熊野へ詣ふく 給ふ ニハ橋
現此不まて出逆給ふ仍ろ逆川次の坂を
逆神坂といふ 其神逆給ふとの謂なり 俗
ニ大かめ坂又根坂ともいふ 此坂半より橋ノ
傍よく見ゆる 西の方ハ遊覧傍 新鹿川
口 鬼本浦まて見ゆる
新鹿 至波田須 一里 此不客舎多くよ紀ヒ
ゆるゝ 新鹿川ニ出ハ舟渡し 川口
海ニ ちかし 大吹坂 俗ニ ちかし此
松といふ有 古木ハ枯て 今ニ植ニ松ノ
古松ハ花山院御乗の時 植ニ故事
ゆゑ 俗説未詳
波田須 至大泊 一里 大吹坂の半ニ 立不し
泰と書 稔 此里ニ来り 此不ニ身を
隠せしより 此来名くと云 此坂より左ニ
見ゆる海濱ハ小泊なり 大吹坂俗ニ大川
坂といふ
大泊 至本の本 半里 ゆゑ川海へ ちかし 波
あり 其附ハ川上ハ海ニ町あり 又坂 訴
諭ニ 観音者比音山清水ちといふ 俗
泊の観音と云 相傳 大同年中 坂上田
村麻呂 東師清水寺の観世音を 京ニ
移し建立し 今ニ 仏壁の説なりと 又
雲乃滝ニ 岩崖あり 中ニ 金洞の観
音像を蔵と云 又三所升山の奥ニ
瀑布あり 高所間なり 有となり
又此下ニ 紀州名の役人旅行を見
まバ不の人夫と見えて老嬢と お婦式
人荷物を分く 頭ニ いたき次の驛へ
送るを見る 他不ニ めたらかなり
鬼本 至有馬 半里 此不より紀藤ニて入船多
く東数子軒余ゆり 黎昌乃地なり 長傍

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

泊有り高サ 紀州者の往人旅行を見
又此所ゟ
るバ右の人夫と見えて先焼と申候武
人荷物をかく頭ふいたき次の驛へ
送るを見る他事ふめ法うなり
鬼本 至有馬 此ゟ紀州迄九里半
くあれ共余り難義の地ゟ長峰
尾筋へ取もあり 又此所ゟ出(おか)
此所ゟ
下岩屋有り 東面ゟ十日余南小子
日余ハ荒磯く陸ゟハ路ゟ一海上ゟ
ゟ有り舟を為ふ巌石蓋く屋ねく
石面をめぐるふしぎ 小判ゟ
亦南木村ゟ此浦ゟ
ゟて大ゟ船ゟく 此ゟ
ゟ集人の右村ゟ名ゟく有り



又村ゟ氏浦ゟ船ゟ野
ゟ村ゟ右村ゟ右村ゟ
薩ハ長一丈四尺人事ゟく
ゟ人四尺ゟ事ゟく
ゟ人ゟ根敷のゟ一切ゟ小和浦
ゟ人又ゟを世西ゟ特留採油油船浦
ゟ一右村ゟ守信ゟ孤船の事を預り
本当ゟ子人ゟとゟくゟゟ船
小五番のゟハ右ゟ此ゟ右小屋ハ屋
要害山 町の西右の方小五岩山 山ゟ
らーき山ゟり
花窯 伊勢冊ゟの陵田ゟ紀小ゟ
ゟり 此新三老ゟ小屋ハ屋ゟ右窯
ゟゟ五人ハ大般若の窯ゟ右窯
周廻二町ゟり 右例小五子高ゟ五間
ゟあり ゟ六間ゟゟ場小屋ゟ集ゟ
詳小ゟゟゟり 花の窯小ハ毎年二月
花の供縄ゟ仏ゟい情の形ゟ造
窯小場ゟい神事ゟ祭一年ゟ今小
ゟハ年同年紀所載小同一

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

とあり古六所もう倡小房自集古
洋小又くう花の蜜小八毎之月
花の区縄をかむ花の情の形を造
叢小活とい神事を奏し舞ま今小
たへ年回本紀所載小同一

久安百首　紀氏望　いう活の村小活を社の　公能
　　白菊花ちしそ里ふ
夫木集　神活つる花の村小ゆかめん　光俊
　　る村小かるとう
又房を集云花の宮社をまた活ぬ
風うく宮風の山なる中をうかちく経
をうめ年たる天人常小下うく修吉
一年ちとり

天活人宮尾をふ活る社ちや　坊基法師
活のちうを尺おをふうん

右のか代うの探集小ふ多一今男ろ
庵田神祠　宮より西南井土村小あり伊
特册神退乃地活小神祠を動修をる非
勢三巻書ふもろくう
大馬控現祠井土村の西小一里計
山中小立棚作大海釈寺雲と日附小
とりふ又此祠乃茶小時く潮のさき活
出る沸泉のと一海をを去半一
里余の山中ふれ小奇妙の事ん
井土川　承口ろる井土村
此ふ小鬼の頁塚とふをの
ありりふう一又此奥池
川村小茶時を去強利
ちりとりふ又池を村小
勢熊石りありとりふ
有馬　至阿田和　本年荘
　二里半
有る村此下小垣内を賠
とりふ郷士あり名八茶の
新宅塚主垣内
安房守の末
孫とりふ村
を活をふ
右八和宮
九八新宅の
別をこあり

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号 へ二-1

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』 請求記号 へ二-1

土人云此濱
波あらはれ有時
高水潮濤
ゆく来田ある
入海のごとく
一面の湖と
なる程なる
汐干
る時ハ
大海へあ
も引ゆく人大
此忌こゝ地ひ
きくして悪くテ
かゝし仍る常ハ
川の如ハ入江を
乗渡しもを又此方水の後
水落て土人海の砂を上濱
所を築とし或ハ半築とも
亦水ゆく嶺を半もを古時ハ命かきり小迹ゆへる半人見を不ゆく親志らは
子志らはといふ見けて地名を名付ゆ事も所らは 井田村 上野村 見より新宮まての間
小坂もあり 石鍾ゆくあしく右の方ハ高山を出し山人粮鍾あり 軍用の設人左の方
井田侍梶ヶ奥と云出侍君なり見より 松原山侍方浜ゆく大流き地をきたり 松の根
をうらハ此本国海新新作上濱乃根上り松といふ上記不多し此松林より左此方ハ南海
七里浜濱西の方ハ熊野侍 新宮元熊野村今花の宮 新宮川口うとふの浦見なり又相野
の在不三熊野乃名付り
といふ名不も此辺のよし亦水侍破といふも此不四ヶ庄精原村小名法きの侍といふ不を此
不ならん武田氏の紀伊志畧小菊葉の刻を水侍と付く浜の洗の侍小夫本の衣笠大臣
の家を載より未知執見 和川村を出ハ新宮川の端なり此川端小七条本ゆり根ハ
柏の古木ゆく上小梅樹桃柿桂松乃云条をやとは又土人云此川上小十三条屋とりし
木をもといふ舟番所 新宮所なるより役人出て渡し舟此切り形を出ハ舟賃古文之
役所礼及旅人小とる土人往来ハ舟子を人掉義文と定杭小出付を新宮川源ハ
和州吉野郡より流て大峯川といふ本文ゆく岩田川青谷川流合て熊野川といふ
本文より流まて九里八町といふ此川上小牛奥柱現社熊野人三苗の祖神なりと
いふ三苗ハ今井 鈴木 榊本ハ此牛ヶ奥ハ鈴木氏の神なり即相野庄 新田村ハ在家
小武蔵坊舟番所生の地なりとて産室の柱と云柏樹を又辨蔵が玉条といふもを
高大なり 浜 船侍 舟の形小似なり詩なり見ハ毎歳九月十六日 新宮祭礼乃
時神輿を船小此世なり此侍を漕めくるとなん 薩埵菓小 三熊野の浦ハ小見なり浜舟侍 神乃みなり紀小漕めぐるなり内侍
其より川上小松とゝの舟渡しをといふ此れハ浜元なるん 和氣村小毎毛豆の明神と
てあり風雨集小柱現のみをとゝいふ不ゆく後白河法皇小法考させなふ和あるされ

国立国会図書館　タイトル『勢州宮川より紀州阿田和迄之図』　請求記号　へ二-1